

(様式3)

事業所名 グループホーム松峰園

目標達成計画

作成日 平成 22 年 12 月 10 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	I・1 III・23・26	重度の認知症の方、病気のある方、終末期の方のケアを行っている為に、職員は、認知症、身体の病気、終末期の対応の仕方、また、食事づくり、掃除、洗濯と、何でも屋にならなければいけない。もちろんそうなることが、松峰園の職員としての目指す姿であるが、まだまだ全職員が一定のレベルのケアが出来ているとは、いえない。	全職員が、松峰園は、どんなケアを目指しているかを意識しながら、日々のケアを行う。経験の少ない職員、個人のケアの力量の差があっても日々のケアが一定の水準を維持できる。ケアプランを意識したケアができる。	①ケアプランに則した日々の介護記録用紙を作成し記入することで、プランにあげたケアの実践がわかるようにする。②ケアプランよりある程度の日々の生活の流れ、週単位の生活が見える。それに則した日々の職員の役割分担を明確にする。③明確になった援助内容に則した日々の職員の分担表を作成し、実践する。④職員は、視覚的に入所者の生活と援助について確認でき、記録することで、ケアプランを意識できる。	6ヶ月
2	I・10	玄関が雑多になっていて、2個ある意見箱の1個の方は、利用できない状態になっている。	利用者、家族の方々の意見をくみとり対応する。	①意見箱を1個にして、テーブルと椅子を使い易くする。②椅子に座って、重要事項の説明等を読んだり、意見を書けるようにする。③現状では、園独自のアンケート等の実施は、困難である為、外部評価の家族へのアンケートの結果を真摯に受け止め対応していきたい。	①に関しては2ヶ月
3	I・2	グループホームの役割として、地域の方々への認知症の周知・啓発があるが、計画的に行っていない。	中高生の職場体験や一般の方々の見学を受け入れ、実際に松峰園で時間を過ごしてもらうことで、グループホームを知ってもらい認知症を知ってもらい、認知症になってもまわりが変わることで、笑って生活ができる事を感じ取ってもらう。	①中高生に関しては現在も職場体験を行っている。内容も工夫し、どんな人が絵に描いてもらったり、している。②一般の方に関しては、入所者、家族の方々の了解を得る。③町の広報等を利用し、見学の受け入れを周知させる。④担当職員が受け入れ方を話し合い実施する。	②③④に関しては8ヶ月
4	IV・52	トイレがアコーディオンカーテンで仕切られているだけなので、利用者、職員とも使いにくいと感じている。	入所者も職員も同じトイレを使うので、お互いが気持ちよく使えるように整備する。	2箇所のトイレに関して、内側に鍵つきのアコーディオンカーテンをつけて対応する。	10月末に実施済

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。